

令和6年度 第1回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和6年7月3日 開 催

豊橋市教育委員会

第1回 総合教育会議	
日時	令和6年7月3日(水) 午後3時00分～4時20分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	浅井 由崇 市長 内浦 有美 教育委員(欠席) 中島 美奈子 教育委員 山西 正泰 教育長 渡辺 嘉郎 教育委員 西島 豊 教育委員
事務局	杉浦 康夫 副市長 石川 和志 教育部長 鈴木 大介 教育政策課長 加藤 友治 教育会館長 朽名 栄治 財務部長 伴 健太郎 財政課長 鈴木 秀典 学校教育課長 ほか 6名
その他	傍聴人 3名

議事日程

協議事項

- 1 本市の特別支援教育について

その他

- 1 今後の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和6年8月26日(月) 15:00～

(教育部長)

ただいまから、令和6年度第1回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の協議事項は、「本市の特別支援教育について」でございます。

それでは、資料1を事務局から説明してください。

## 協議事項

### 1 本市の特別支援教育について

#### ■学校教育課指導主事 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、説明に対する皆さまのご意見などをお聞かせいただければと思います。

(渡辺委員)

資料では、特別な支援が必要な児童生徒の数が増加していましたが、児童生徒数全体が減少するなか、今後も増加する見込みなのでしょうか。

(教育会館長)

全児童生徒数における割合がどこまで上がるか予測は難しいですが、まだ増加すると見込んでいます。

(渡辺委員)

増加している要因として、どのようなことが考えられますか。

(指導主事)

要因の一つとして、保護者の発達障害や特別支援教育に対する理解が深まったことが考えられます。

(渡辺委員)

昔は特別支援学級はなく、ある意味インクルーシブ教育※でした。それが「多様な子どもへ必要な支援を」という考えのもと特別支援学級ができ、増加している状況の中、特別な支援が必要な児童生徒も含めて、子どもたちの生きる力を育むためにどのような教育の在り方が望ましいのかを考えていく必要があると思います。

※インクルーシブ教育：障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限り同じ場で共に学ぶことをめざす教育

(山西教育長)

幼稚園や保育園では、障害の有無に関係なく同じ教室と一緒に子どもたちが過ごしていますが、小学校に入学する時には、保護者の意向も踏まえた上ですが、通常学級と特別支援学級に分かれてしまいます。障害のある人もない人も、将来は一緒の社会に出ていくことを考えると、小中学校でもインクルーシブ教育を取り入れる必要があるように思います。

人員配置の点では、これまで特別支援学級を担当していた教員が通常学級に入って児童生徒をサポートする形となりますが、現状の教員数では足りないなので、この部分の人員が確保できれば、インクルーシブ教育は可能だと思います。

(浅井市長)

特別支援学校の児童生徒も通常学級に組み込むことになるのでしょうか。

(山西教育長)

障害の種別や程度にもよりますが、その子の成長スピードに合わせた教育が必要となったり、特別支援学校での教育を希望する保護者もいたり、特別支援学校で対応した方がよいこともありますので、特別支援学校は今後も必要であると思います。

(中島委員)

小中学校でのインクルーシブ教育には基本的に賛成です。通常学級の子どもたちには良い経験になると思います。ただ、障害のある子どもにとっては、刺激を多く受けることができる一方で大きなストレスを感じる部分もあると思うので、少人数になれる場所も必要だと思っています。

(山西教育長)

インクルーシブ教育を行うことで、学習指導が難しくなる部分もあるとは思いますが、個人的には、モデル的に実施しても良いのではないかと考えています。

(中島委員)

資料では、保護者の意向も聞きながら通級学級や特別支援学級を選択していくと説明がありましたが、保護者が持っている情報の質や量が人によって異なっていると思います。例えば、医療的ケアが必要な子どもや特に小児慢性特定疾患は理解がされにくいことがあるので、子どもの保護者などに対しては、義務教育の前の段階から医療機関からの情報提供など関係機関が連携して、支援を行っていくことが課題であると思います。

(渡辺委員)

医療的ケアが必要な児童生徒や小児慢性特定疾患の児童生徒は、特別支援級に入級するのですか。

(山西教育長)

児童や保護者の意向で通常学級か特別支援学級か選択できます。

(西島委員)

障害のある子どもが社会で生きるためには何が必要かということについて、義務教育の前後も含めた中長期的な計画を立てて実行する必要があると思います。人口減少が進む中、どこも人手不足で労働力を取り合っている状況なので、全体の計画を見据えた上で、ICTなど活用して省力化できる部分を合理化し、限られた人材をうまく配置し対応していく必要があると思います。

(渡辺委員)

授業は ICT を活用し、特別な支援が必要な児童生徒に教員が対応するということになるのでしょうか。

(山西教育長)

特別な支援が必要な児童生徒に力を入れることは重要ですが、通常学級の児童生徒への教育も行う必要があります。

(中島委員)

支援が必要な子どもであっても素晴らしい能力を持っています。そういった能力を発掘できる教育ができるようになればと思いました。

(山西教育長)

特別な支援が必要な児童生徒に対する教員の意識も「困った子」から「困っている子」へと良い方向に変わってきていると感じます。インクルーシブ教育を通して、通常学級と特別支援学級の児童生徒がお互いに理解し合える社会にしたいと思います。

(西島委員)

特別支援学校との連携は何か行われているのでしょうか。

(指導主事)

人事交流でくすのき特別支援学校に赴任する取り組みがあります。任期終了後は、また地域の学校に戻って還元することで、子どもたちや周りの教員にも良い影響が出ていると思います。

(山西教育長)

現在、くすのき特別支援学校へは、豊橋市から6名赴任しています。3年の任期で2名ずつ入れ替わり赴任しています。

(西島委員)

個別の支援計画を活用した全体的な取り組みはできているのでしょうか。

(指導主事)

取り組み自体は浸透してきており、個々の子どもに応じた継続的な支援に繋がっています。

(教育会館長)

小学校から中学校、中学校から高校の連携はスムーズにできています。幼稚園、保育園から小学校への連携もできていると思います。

(西島委員)

小中高特連携教育推進協議会を活用したこれらの連携は豊橋市の誇れる部分だと思うので続けていただきたいと思います。

(教育部長)

では、本日の会議の総括を市長にお願いしたいと思います。

(浅井市長)

本日の協議事項は「本市の特別支援教育について」でした。特別支援教育については、教育委員会以外にも様々な部局が関係しており、奥深く幅の広いものだと改めて感じました。この議題については、教育だけでなく全体から考える必要があり、総合教育会議のこの時間だけでは結論が出ませんので、引き続き議論をして、よりよい体制を構築できるよう取り組んでいきたいと思えます。

**連絡事項**

- ・ 次回開催日程 令和6年8月26日（月）15:00～

(教育部長)

以上で、令和6年度第1回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。